

## 哲學研究 第三十二號

一一六

例會を開く。米田講師以下會員十名出席、晚餐後左の講演あり。

## 文化發展の諸學說

銅直學士

亞米利加社會學雜誌の最近號に現れたる Hillwood 氏論文の紹介なり。即ち氏は文化發展と社會進化の概念を區別するの要ありとし、社會は動物猶之を有すれども文化は獨り人類特有の産物なるを以つて文化發展の理論は必ずや人類特有の事實に求むべきものにして、其特質は即ち腦髓の發達と言語によるの相互交通を管む社會生活これなりとなし、從來の文化發展説を地理的環境説心理的模倣説、環境習熟説の三部類に大別し、此等の文化發展説の不完全なるを指摘して氏の所謂文化の社會心理説なるものを述べ、更に之に經濟現象宗教現象等に見て其の所説の正確なるを立證せんとせるものなり。

## 美學美術史研究會

美學美術史研究會は、九月十七日午後六時より學生集會所に於て、晚餐會を兼ねたる例會を開き、席上、文學士福井利吉郎君の嚴島平家納經に關する談話あり、十時過ぎ散會したり。

岡本文學士遺稿出版 今春、文學士岡本春彦君が、思ひも寄らず病の爲に長逝するや、師友悉く之れを痛惜し、吾等同人も亦、君の遺稿『神祇主義に就て』と『シェリングの象徴思想』の一節を

本誌に掲げて、若くして夭折したる異才の片影を偲んだことであるが、故人の如き人が心血を濺いで置いた遺稿を永く篋底に埋め置いてはならないから、西田朝永兩博士、厨川白村氏、矢野禾積、宮城信雅兩學士等の盡力によつて、其の遺稿中より、内容と量とに於て、一卷として一般讀書界へ發表するに最も適當なる『哲人ブルノー』の一篇を撰んで公刊し、哲學上の主著『シェリングの象徴思想』は、之れに詩論『詩歌の神髓』、『神祇主義に就て』の二篇と、詩歌と、翻譯二篇とを加へ輯めて一卷となし、友人、知人、その他有志者の爲に頒たれることとなり、『哲人ブルノー』は已に、京都市丸太町寺町東入弘文堂書房より出版せられた。次號に於て紹介せられる筈であるが、四六版、麻布表紙、ブルノー肖像入、定價一圓二十錢である。『シェリングの象徴思想』近く出來するであらうが、豫約よりは餘分に印刷する筈であるから、希望の人は、宮城、矢野兩氏の中に申込みは賞費(約二圓)を以て頒たれるであらう。

## 新著紹介

## 佛典の解説

常盤大 定著

本書は大藏經中より特に日本文明に重要な關係を有する經典

を取り出し成るべく手軽にそして出来得る限り私心を挟まずして内容の上に何等の手がかりを得て經典相互の關係を跡附けて見やうとせられたものである。

(一)序説、(二)大般若波羅密多經、(三)金剛般若經、(四)首楞嚴三昧經、(五)大乘伽耶山頂經、(六)思益梵天所問經、(七)維摩經(八)妙法蓮華經、(九)大華嚴經、(十)地持經、(十一)入法界品、(十二)梵網經、(十三)菩薩瓔珞本業經、(十四)大般涅槃經、(十五)勝鬘經、(十六)大方等如來藏經、(十七)解深密經、(十八)楞伽跋陀羅寶經、(十九)大方廣圓覺修多羅了義經、(二十)結論。

經典一々に就て譯經の事情、註釋の有無及びその價值、日本文明との交渉等極めて簡單ではあるが併し要領的に解説せられ、考證すべきものは之を考證し、而してその内容を紹介して教理史的に他經との關係が巧みに論述されてある。今例へばその他經との關係問題に關する一例を法華經に取りて見る、著者は法華經と「他經との關係を明らかに判定せしむる材料は甚だ乏しい」とし、しかもその乏しき材料に就て、(一)分別功德品に五波羅密を行ずる功德に勝るといひて殊に般若波羅密を除くと加言せるは當然般若經を想像せしめ、(二)「提婆の開會は大乗十法經」と、(三)「無盡意菩薩の活動は大集經の或る部分と」、(四)最後の普賢品は華嚴經と關係あるべしと思はれ、(五)「阿彌陀佛の本生を大通智勝如

來に關聯せしめ此經を如說修行する女人の極樂往生を説く説相は共に阿彌陀佛信仰の純熟せざるを示すべく、梵本に追加せられたる普門品重傷中の阿彌陀佛はたしかに大無量壽經と不離の關係を彷彿せしむるものである事などを推論して居らるゝ、本書に收載せられたる他に經典に就ても亦是の如き論鋒を以て逐次説述されてある、今は單に法華一經に就てしかも部分的の一例を擧ぐるに止める、要するに是の如き觀察は教理史上のみならず經典成立史上より見ても意義なる一方法であると思ふ。

本書最後に附する結論は僅かに十二頁足らずであるが、本書の結論として最も要領を得たものであり、その僅少の頁の中に大乘經典を中心とした印度大乘佛教々理史の梗概とも見らるゝ論述が包含せられたのは並々ならぬ著者手腕の然らしむる所であると思ふ。

本書收載する所悉く大乘經典のみであつて、しかも紙數の部分上往生系統の經典が省略されたのは遺憾であるが、併し「此講義には先づ般若、方等、華嚴、法華、涅槃、諸佛、祕密の代表的大乘經典を擧げて後、小乘經に及び、更に律論に及ばうと思ふ」て居らるゝ著者の覺悟は何時か實現さるゝ機會があるだらうと期待される。要之、現代的研究に基ける本書は大體上大乘經典とは果して如何なるものなるかを要略的に知得せんとするものゝ一般的參考書として格恰のものであると信ずる。東京丙午出版社發行、菊二三六

頁、定價金壹圓(本田義英)

# 寄贈書籍雜誌

科學概論 文學博士 田 邊 元著 東京 岩波書店  
 哲人ブルノ 故文學士 岡本春彦著 京都 弘文堂書房  
 佛敎論理學 文學博士 村上專精共著 東京 丙午出版社  
 境野黃洋

哲學雜誌、思潮、丁西倫理講演集、心理研究、六合雜誌、東洋哲  
 學、東亞之光、早稻田文學、學校教育、教育、內外教育、評論、教育  
 研究、教育界、教育時論、東京教育、兵庫教育、奈良縣教育、靜  
 岡縣教育、滋賀縣教育會雜誌、岐阜縣教育、三重教育、愛知教育  
 雜誌、長崎縣教育雜誌、都市教育、信濃教育、佐賀縣教育、藝備  
 教育、宮城教育、山形縣教育、

## 前 號 目 次

デカートの「規則論」に現はれたる批判論的思想……………	文學博士	朝 永 三 十 郎
交替遠近錯覺の變換時間に就て……………	文學士	黑 田 源 次
米國に於ける黑人教育の發達……………	文學博士	小 西 重 直
美の具象性(完結)……………	文學博士	深 田 康 算
法理と倫理……………	文學士	安 部 晴 之 助

彙報——新著紹介